

(仮称) えんがる町民センター建設に係る整備方針について

平成29年1月23日策定

1 方針の位置付け

(仮称) えんがる町民センター(以下「町民センター」という。)の建設に当たっては、遠軽町文化センター等を考える会からの進言を基本に、平成28年12月、プロポーザル方式により設計者を選定し、基本・実施設計業務を進めるとともに、同月、(仮称) えんがる町民センター建設検討協議会を設置し、協議会意見を基本設計及び実施設計に盛り込みながら検討を進めることとしています。

本方針は、基本設計及び実施設計を検討する際の整備方針として位置付けることとします。

2 各種計画等における施策、キーワード

(1) 新町まちづくり計画(平成17年度～平成32年度)

優れた芸術文化の鑑賞機会や、参加・交流を通じて、地域に根ざした文化活動に関心が持たれ、創作活動や発表の場、交流・鑑賞の場としての芸術・文化活動の拠点となる施設の整備が望まれていることから、「芸術・文化活動拠点施設整備事業」が新しいまちにおける重点事業及び主要施策のひとつとして位置付けられています。

(2) 遠軽町都市計画マスタープラン(平成22年度～平成38年度)

まちづくり構想において、「福祉センターの老朽化に伴う建て替えにおいては、現在の機能を有し、さらに、芸術・文化活動に活用可能な複合的施設の整備を図る」として、職・住・遊環境整備の方針に位置付けられています。

(3) 第2次遠軽町総合計画(平成27年度～平成36年度)

遠軽町福祉センターが老朽化していることや、遠軽高等学校吹奏楽局をはじめとした音楽活動が盛んであり、活動の拠点となる施設の整備が求められていることから、芸術・文化活動を継承・拡大していくための事業展開を目指すことを基本に「芸術・文化活動拠点施設の整備」が施策として掲げられています。

(4) 遠軽町公共施設等総合管理計画(平成28年度～平成47年度)

基本方針において、「新規の施設整備事業については施設の複合化・集約化を基本とする。」、「長寿命化を図り資産の有効活用に努める。」、「施設の建設から維持管理、解体撤去に至るまでの生涯費用を見据え資源や資産・リスクなどを管理する。」と規定されています。

(5) 遠軽町文化センター(仮称)等の建設に関する進言書(平成23年10月7日提出)

建設の必要性として、「音楽を中心とした文化活動を生かし、文化面から町の活性化を図るとともに、経済産業活動・地域活動の拠点となる“町民のよりどころ”をつくり育て

ることがこれからの町づくりには重要である。」という意見から総合的に検討し、「福祉センターの代替施設としての役割も担った文化センターを建設すべきである。」という結論に至っています。

3 整備方針

各種計画における施策、遠軽町公共施設等総合管理計画における基本方針及び遠軽町文化センター（仮称）等の建設に関する進言書から、次の2つの整備方針を設定します。

- 音楽を中心とした芸術・文化活動の拠点として、町の活性化を図る施設
- 中心市街地に新たなにぎわいや人と人との交流を創出し、町民のよりどころとなる施設

4 建設場所

岩見通コミュニティ広場駐車場周辺に建設するとともに、駐車場用地を十分に確保し、施設へのアクセス、道路用地の確保並びに旧ふぁーらいとの利活用を図るため、岩見通南2丁目の用地確保に努める。

5 施設構成

(1) 音楽ホールエリア

ア メインホール

- ・ 音響を重視し、広い舞台を設ける。
- ・ 客席数は、600席程度の固定席とし、200人程度の立見席を設ける。

イ リハーサル室

- ・ 音響の良いリハーサル室を設ける。

ウ 楽屋・会議室等

- ・ 男女別の楽屋や子ども連れで鑑賞が可能な親子室を設ける。
- ・ 会議室のほか、大道具庫、倉庫、ピアノ庫、トイレ等を設ける。

(2) 集会・会議室エリア

ア 多目的ホール

- ・ 小ホールとしての機能を有し、福祉センターのホールと同程度の規模とする。
- ・ 大規模災害時において、庁舎が被災した場合、災害対策本部としての機能を有する。

イ 会議室・和室等

- ・ 複数の会議室を設け、間仕切りを設置することにより、様々な用途への使用が可能なものとする。
- ・ 和室は60帖程度の広さとし、各種研修に利用できる実習室や倉庫、トイレ等を設ける。

ウ 共通スペース

- エントランスロビー、展示スペース、ラウンジなどの町民が日常的に憩えるスペースを設ける。
 - 管理事務室のほか、関係団体が利用する事務室等を設ける。
- (3) 駐車場エリア
- 普通車150台以上、大型バス5台程度を設ける。
 - 交通アクセスの利便性を重視する。
 - コミュニティ広場駐車場の月極利用者に配慮する。
- (4) 周辺エリア
- JR遠軽駅とのアクセスや駅前広場のバリアフリー化を考慮する。
 - 岩見通（岩見通南1丁目）を対面通行に整備する。
 - 旧ふぁーらいとの利活用を図る。
- (5) その他
- 施設のユニバーサルデザイン化や長寿命化を図る。
 - 景観に配慮するとともに、無駄のないシンプルなデザインとする。
 - 建設コストを低減するとともに、新エネルギーや省エネルギーの導入により、施設の維持管理経費を抑制する。
 - 災害時における避難所及び避難場所として、備蓄品等を配備するスペースを設けるとともに、遠軽町が管理するデータのバックアップ保管施設としても考慮する。

6 今後の検討内容

- (1) メインホールの客席数及び座席配置
- (2) 町民センター、駐車場等の配置
- (3) 建物のデザイン
- (4) リハーサル室や多目的ホールの面積及び機能
- (5) ホールに必要な付属室や楽屋・会議室等の部屋数及び面積
- (6) 舞台の必要面積や吊物、照明、音響等
- (7) 施設の維持管理費を抑制する省エネ機器等の導入
- (8) 管理運営者や福祉センター事務室利用団体の移転先調整